４　経営の基調

「生きる力」を育むための４つの柱

１）思いやりの心・豊かな人間性の育成に努める

今日の社会において、少子化や核家族化に伴い、人間関係の希薄化が進んでいる。大人社会の状況を色濃く反映し、友達との関係をうまく作れない子どもも増えている。本校は全ての学年が単学級であり、人間関係が固定化してしまうことが心配される。

そこで、同学年、異学年、保護者及び地域人材など様々な人たちとの意図的・計画的な活動を通して、自他のよさや多様な他者との関わりの大切さを実感させていき、自己理解力と他者理解力を高めていきたい。そして、よりよい人間関係を築くための相手に対する思いやりの心や感謝の心、これからの社会で生きていく上で必要とされる「多様性の受容（ダイバーシティ）」、すなわち異質なものや他者の違いを受け入れることができる豊かな人間性の育成に努めていきたい。

２）　たくましく生きる心と体の育成に努める

生きる力の基盤となるものは、粘り強くがんばる心と健康な体である。困難なことにも意欲的に挑戦し、最後まであきらめずに取り組む粘り強い心と、生涯を通じて健康で安全な生活を送ろうとする自己管理ができる子どもの育成に努めていきたい。

また、基本的な生活習慣の確立、食育、運動の奨励等に保護者・地域と同一視点で取り組んでいきたい。

３）　確かな学力の向上に努める

令和２年度から新学習指導要領が完全実施され、その中で求められている「生きる力」を育むために、社会の変化を見据えつつ、社会に出てからも学校で学んだことを生かすことができるよう、「学びに向かう力・人間性」、「知識及び技能」及び「思考力・判断力・表現力」の三つの力をバランスよく育んでいきたい。

そのためにも、日々の授業を大切にし、子どもたちに基礎的・基本的な知識や技能の定着を保障するとともに、学び合いや互いの考えを深め合う学習場面を取り入れる等、「協働的な学び」を充実させながら、確かな学力の育成に努めていきたい。加えて、誰一人取り残さないために、子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、「個別最適な学び」を充実させたい。その上で、本校の子どもたちに必要とされる思考力・表現力を高めるための取組を展開し、資質・能力の一層の向上に努めていきたい。

４）　家庭・地域との連携を深め、愛され支持される学校づくりに努める

「地域とともにある学校」の具現化を目指し、学校・家庭・地域が連携しながら、よりよい学校づくりに取り組む「地域の核」としての学校でありたい。そのためにも、地域と連携した活動やキャリア教育の視点を生かしたふるさと教育をこれまで以上に充実させていきたい。また、地域からボランティアを募集するなど、地域の力を積極的に活用した教育活動の推進を図るとともに、地域の活性化にも寄与する学校でありたい。